
Das Ohr! (ダス・オーア)

フェルメン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Das Ohr! (ダス・オーア)

【Nコード】

N8143C

【作者名】

フェルメン

【あらすじ】

Das Ohr! ドイツ語。日本語で「耳」という意味。あたしは、鬱病。だけど負けたくない。こんな病気なんかには。

第1話（前書き）

半分実話です。

第1話

昨日は、大量に酒を飲んでしまった。

もう起きなくていいって思った。

こんなところ

大嫌い。

お酒はまずい。

でも死ねるなら

我慢して飲むよ・・・

朝（前書き）

あれ、あたし、生きてる・・・！？

朝

「なんでお酒飲んだのか」

とか何とか。

両親がどたばた部屋に入って来て騒いでいた。

あたしは、寝たふりしていたのか

本当にどこか遠くへ行っちゃいそうだったのか。

それすら分からず

薄ら笑い。

昔もよくこんなことあったっけ？

中学の頃から自殺未遂したり、お酒飲んだりして

泣けないあたしは

1人部屋にこもり、鍵をかけ

この世から旅立とうとした。

お父さんが

「もうやめろ！」

って言って

お母さんが声を上げて

「私のせいね」

と泣いた。

あれから何年？

高校も卒業したけど、あたしはフリーターのまま。

自分をうまく表現できず、もがいてる。

人とケンカしたら言い返せなくて

音楽にぶつけた。

悔しさ、憎しみ、そして失恋した時はその男への愛情・・・。

ただ、自分の愛し方は今まで学んだことがなかった。

昨日の夜はね、ライブの打ち上げの飲み会とは違うんだ。

いじめに耐えられなくなって死のうって決めた。

携帯で泣きながら文章をみんなに送った。

「今から死ぬ。ごめん」

携帯が鳴ってた。

その音が段々遠くにいった。

涙が溢れた。

苦しくなると

実感がわいてきた。

・・・あたし、今度こそ本当に死ぬんだなあ・・・

あたしが死んで、この先ずっとみんなが

あたしを傷つけた人が

何年経っても

「あいつ、死んだんだ」

「自分のせいかも」

って

罪悪感とかさ

反省とかしてくれたら

それでいい

バンブ・オブ・チキンの ” K ” という歌をガンガン流して

泣き声をもみ消した。

あたしも

あたしにも

クロネコがいるよ

すぐとなりに。

そのクロネコはKといって

あの歌と同じ歌詞で

似てる性格なんだ

今、あたしのKは

背中であたしの涙を感じてる

ねこは

水が苦手って言うのに

我慢して

背中を貸してくれてるんだ

おやすみ、あたしのK。。。。

こんな飼い主でごめんね

「なんでお酒飲んだのか」

とか何とか。

両親がどたばた部屋に入って来て騒いでいた。

あたしは、寝たふりしていたのか

本当にどこか遠くへ行っちゃいそうだったのか。

それすら分からず

薄ら笑い・・・・・・・・

生きてしまった(前書き)

死ぬはずだったけど

生きているあたし・・・

生きてしまった

「キリコ、起きた？ よかった」

あたしが目を開けて覚えているのは

お母さんのその言葉だけ。

後は、よく思い出せない。

朝になつたみたい。

ぐっすり寝てたみたい。

起きたら、また涙が出そうだった。

死ねなかった・・・・・・。

今度こそ本当に死ぬと思って

お酒飲んだのに。

生きたらどうしよう？

なんて想像してなかった。

いや、でも

心のどこかで考えたんだ。

一瞬だったけど。

「もし、今度病院に行つて先生に会つたら、何て説明しよう？。」

「救急車で運ばれるとしたら、こんな服装じゃ恥ずかしいよね？。」

「あ、入院するとしたらお財布とか用意しなきゃ！。」

心の中では「もしも 再び 息をした場合」

を想定していた。

本当に死にたいと思いながら、

生きたいとも望んでいた。

そりゃ

できるものなら

生きたいよ。

楽しいことだってあるだろうからね。。。

例えば？

何かの映画で聞いたことがある。

確かウーピー・ゴールドパークが

「死にたい」と言う子供にこう言ったの。

「本当に死ぬの？ もつたいない！

あなた、31（サーティワン）のアイスの味、全部知ってる？

全部名前言える？

あたしはあの味を全部食べるまで死なない！」

何の映画だったか忘れたけど

たしかに

人生には楽しいことも待ってるのかも。

お母さんが、何かあたしに話していた。

あんまり覚えてない。

友達のエイコが、何度もケータイの留守電に伝言入れてた。

それにメールもきてた。

《キリちゃん、なんで！？ 何したの！？ 連絡ください》

エイコからは、このメールが何件もきてた。

留守電の声は震えてた。

今日生きると思っていなかったから

あたしは1日中、ぐうたらしていた。

何かしなきゃと思いながら………。

遠距離恋愛（前書き）

遠距離恋愛の力レから連絡が・・・。

遠距離恋愛

ぼーっとしていると、

ケイタイのメールが鳴った。

遠距離恋愛中のカレからだった。

《キリ、連絡ないけど、どうした！？ 心配だよ》

男性不信のあたしは、

・・・・・・・・どうせ心配なんてしてないくせに・・・・・・・・

と心の中で叫びたくなった。

電源を切った。

・・・しばらくして、また入れてみた。

メールがきた。

カレからだ。

《今、仕事中なんだけど、キリからメールこないから心配だよ。
いつもこの時間にメールくれるよね？》

あたしのこんな姿見たら、あなたは

別れようって言うんじゃない！？

今まで付き合った人からも言われたもん。

「そんな病気の人、怖い」

「鬱病？ 犯罪とかすんの！？」

「自殺するとか、引くよ……」

1ヶ月前から付き合い始めたカレ。

友達期間は2年。

同年とは思えないくらい大人なの。

仕事熱心で

完璧っぽくて

《あゝ、仕事うまくいかない。どうしよう・・・》

って、あたしに弱みを見せるところが可愛い。

遠距離だから滅多に会えない。

でも毎日チャットで会話してる。

カレからは

まだ

「愛してる」って言われたこと無いんだ。

カレは

「愛してるって簡単に口にしたら

その価値が薄れてしまっ」って・・・。

あたしは早く聞きたいと泣きじゃくったこともある。

それでもカレは頑固。

《まだ言えない》

って言った。

今まで付き合ったカレは、

あたしが

「愛してるって言うて？」

ってお願いしたら

簡単に

「愛してるよ」

って言うてくれた。

他に何も要らなくて

その言葉を聞くと幸せになれた。

カレに言ったことがある。

「今までの彼氏は、愛してるって言うてくれたもん！」

カレは笑った。

《でも実は愛されてなかったんでしょ？》

・ ・ ・ ・ ・ 図星 ・ ・ ・ かも ・ ・ ・ 。

《嘘でもいいから、言われたい？
それとも本当に心から言われたい？》

あたしはR o m a n t i cな恋愛がしたい。

だから答えた。

「嘘でもいい。愛してるって言って欲しい」

カレは驚いてた。

《嘘でもいい？ へえ。そうなんだ ・ ・ ・ 》

あたしは言い張った。

「そうだよ。それが女心だもん。
あなたは女心、全然分かってないね。

あたしもトラウマあるし男性不信で
愛されたことないかもしれないけど、
それはあなたも同じじゃない!？」

カレがしばらく沈黙。

そして言った。

《実は、俺も女性不信なのかも》

遊んでるんでしょ!？

どうせ。

男の人って

簡単に遊べるからいいね！

女は妊娠させられたら・・・

責任負わなきゃいけないけど

男は逃げればいいだけだもんね・・・。

カレが女性不信だなんて信じなかった。

カレはあたしにとって賢くて

ルックスもそこそこで

優しい。

それに・・・

ドイツ人。。。。

ドイツに住んで働いてる。

遠距離の彼女がいて、遊ばない白人っているの！？

あたしは分らないよ。。

トラウマ（あたしの場合）（前書き）

あたしは今もトラウマと戦っている。

2007・10月8日（月） 19：20

文章がめちゃくちゃだったらごめんなさい。

あたしは　トラウマに

脅えて　日々を過ごしてるから。

トラウマ（あたしの場合）

トラウマ・・・・・・・・。

あたしは自分を完全に見失っていた。

そんな時、カレから

パソコンにメールが届いた。

2007年、8月中旬のことだった。

キリへ。

日本に行く。会いたい。体調がいいなら、2人で旅行しよう？
体調悪かったら、無理しなくてもいいよ。

あたしのために

わざわざ

ドイツから日本に会いに来てくれる。

体調は最悪だけど

会うことにした。

今回を逃したら、今度会えるの

いつか分からなかったから・・・・・・・・。

カレと会う日程と場所を決めた。

大阪で会うことにした。

時間は夜8時。

沢山の荷物を抱えたカレは、時間通りに来ていた。

『会えて嬉しい』

お互い、言葉が重なって

ちょっと恥ずかしかった。

いつだったか、カレとチャット中

《国籍に関係なく、遊ぶ人は遊ぶし

まじめな人はまじめ。でしょ?》

こんなメッセージがきた。

そんなの

頭では分かってるよ……。

「俺は遊び人じゃない」

と言っ

て
それを信じて

あたしは 何度もだまされた。

みんなは言う。

「だまされるお前がバカだ」

っ
て。

その日から あたしは決意した。

感情を殺すことを。

好きって気持ちも 楽しって気持ちも

悲しいって気持ちも 全部。

ただ1つ消せない感情があった

それが 憎悪。

トラウマは数多くある。

アムカした時の傷より、もっと多い。

あたしは今まであたしを傷つけた人が憎くて

カレに八つ当たりしてた。

旅行中、昼間はハイテンション。

夜はトラウマと悪夢にうなされた。

カレは、どんな時も話を聞いてくれた。

あたしがODしようとしても

逃げなかった。

実際目の前でODしても、

冷静に受け止めた。

《薬は2、3個で充分でしょ》

カレはそう言って、大量に水を飲ませた。

あたしは英語で叫んだ。

” I w a n t m o r e m e d i c i n e ! ! (もっと薬が欲しい) ”

病院で処方された薬。

カレは

落ち着いた声で

《もう薬は飲んだよ。何個飲んだ?》

と尋ねた。

あたしは泣き叫んだ。

「足りない！　トラウマが消えない。

過去のことが消えない！

怖い。

不安。

薬ちょうだい！！」

カレはちよつと大声で言った。

《もう充分飲んだ。不安があるなら、外に出して！
全部聞くから》

薬物中毒みたいになつた私の体を

カレは抱きしめた。

薬を欲しがるあたしの体を

力強く・・・・・・・・。

《大丈夫。大丈夫だから

今、何が頭に浮かんでる？》

カレは、ゆっくりとあたしに尋ねた。

頭に思い浮かんだのは

悪い思い出＝トラウマ。

あたしは、身が凍えた気がした。

そしてまた暴れた。

「言いたくない！ 思い出したくない！」

カレは

《1回外にその感情を出して。少しずつでいい。

そしたらトラウマは消えるから》

悪い霊に取り付かれたみたいなあたし。

思い切り騒いで

薬のせいで眠くなって

涙が頬をつたった。

とろゝんとした目。

自分でも分かった。

あたしは

カレの耳を触りながら英語で尋ねた。

「耳」は、ドイツ語で何ていうの？」

カレは答えた。

《D a s ダス・オーア
O h r だよ》

カレの耳に触れていたあたしの手を

上から優しく

包み込んでくれた。

カレのあたたかくて

大きな手で。。。。

ダス・オーア か・・・・・・・・。

あたしは

「ふふ・・・・・・・・」

と笑って

そのまま眠ったみたい。

本当はホテルのチェックアウトの時間。

せっかくの旅なのに

昼はラブラブ

夜は暴れて

カレにとって散々な旅行になってしまったかも……。

あたしは

素直になるのは

嫌いなんだ。

自分が傷つくのはもうイヤだ。

あなたに好きと言いたくても

ありがとうと言いたくても

言えないんだ。

感情を殺すと決めたんだ・・・。

けど

ここで2つの感情が蘇った。

「感謝」と「悲しみ」

過去を思い出させて

今

あなたは

あたしを泣かせてる

そんな男、

今まで会ったことないよ。

アンタ・・・・・・・・

最低だよ・・・・・・・・

だけど

全部の感情を

あなたにぶつけたら

心地よくなって

うとうと・・・・・・・・。

何度も途中で目が覚めて暴れた。

カレは「何が頭に浮かぶ？ 言ってみて」と忍耐強く聞いてくれた。

あたしは単語だけ言った。頭に浮かんだものを

英語でも日本語でも・・・・・・・・。

《夜中でも、日本にいる間は傍にいる。

恐い夢を見たら、抱きしめるから。

感情と一緒に外に出す練習をしようね?》

その言葉を毎晩言ってくれた。

まるで

おまじないであるかのように……。

あたしは少女に戻った気分だった。

安心して眠りなさいと

大人に言われて

そのまま眠る

素直な女の子みたいだった……。

おそろいの物（前書き）

夏休み。

カレとの楽しい日々は、あっという間に過ぎていった。

そしてカレがドイツに帰る日・・・・・・・・

2007年10月8日（月） 23:29

（回想文。あたしは今、憂鬱のまま）

おそろいの物

旅行中、

カレと色んな話をした。

日本について。

ドイツについて。

日本製品、ドイツ製品について。

それからお互いの共通の趣味である『写真』について。

あちこち色んな写真を撮って

見比べた。

数ヶ月前、

あたしが

「花火大会に行きたい」

と言ったことを

カレは、覚えてくれていた。

カレにとっては、有給休暇で

夏休み。

あたしたちは

肩寄せ合って

一緒に花火を見た。

それが

この夏、1番の思い出。

カレがドイツに帰るといって、

あたしは泣いた。

今まで

夜になって

不安になって

暴れたときは

いつもそばにいてくれた人……。。

これから夜

また1人になるんだ……。

そう思うと 淋しかった。

あたしは最後の日、

朝から暴れた

「あなたが帰るなんて、考えたくない!!」

大泣きして

薬飲んだ

ホテルのチェックアウトの時間を過ぎると

フロントから電話がかかってきた。

カレは

あたしが気分が悪いから延長させてくださいと

英語で頼んでくれた

《時間は、まだある。だから落ち着いて。
ドイツに帰るけど、逃げない。
これからも連絡をとるから》

カレは言った。

「そんなの信じない!!」

あたしは叫んだ。

《時間はあと少ししかないんだよ。その時間を有意義に過ごしたい》

その言葉を聞いて

あたしは

ますます 泣いてしまった。

「イヤだ。離れたくない!!」

《いい？ 俺はドイツに帰らなきゃいけないんだ。
また会うから。分かるでしょ？
できるだけ毎日、連絡するから》

カレと残された時間は

あと何時間だろう？

あたしは

コクリとうなずいて

いつの間にか眠ってた。

起きて我に返った。

うわ、、、もうこんな時間！！

あたし達は

駅に行った。

カレは

博多から

東京へ戻らなきゃいけなかったから。

新幹線で・・・・・・・・。

あたしは見送った。

離れ離れ、か……。

ほんとは

ペアリング欲しかったんだけど

言い出せなかった。

新幹線に カレが乗って

発車のベルが鳴って

あたしたちは

時間が許す限り急いで

話したいことを話した。

ドアが閉まる直前、カレが

《ちょっと待って!》

と言った。

待てって言っても

新幹線は待つてくれないよ? (笑)

カレはカバンから

ペンを取り出して

あたしにくれた。

《これ、お守り! 持ってた!
おそろいだよ? ペアリングじゃなくてごめん・・・》

「あ、ありがとう……」

おそろいの何かを持ってるとき、

心がつながってる感じするでしょ？

だからペアリングが欲しかったんだ。

今回は　ペア　”　リング　”　ではなかったけれど

あたしは

いつもカレがくれた

銀色のペンを

大事に持ち歩いている

気分が悪くなったり

緊張したら

そのペンを取り出すんだ

カレが

そばにいてくれる気がするから

安心できるんだ……

第2章 夜（前書き）

夜、あたしはカレと連絡をとることができる。
ほとんどが情緒不安定するとき。

それでもカレは、あたしを安心させてくれる。

第2章 夜

カレがドイツに帰って

あたしは、淋しかった。

でも

カレは約束を守ってくれた。

結構毎日、連絡とってくれていた。

チャットで文字を交換しあう。

時差は8時間。日本が午前0時なら、ドイツは午後4時。

あたしが寝る頃、

カレは仕事中。

カレが寝る頃、

あたしは寝てる。

カレは仕事が忙しいヒト。

昨日、あたしは悪夢を見た。

夜、悪夢をみるときは

薬（睡眠導入剤）が合わないときか

トラウマを思い出してしまった時。

あたしは今朝4時ごろ、

飛び起きてオンライン。

パソコンをつけて、チャットでカレに声をかける。

「いる？　そこにいる？」

英語で文字を打つ。

昨日は日曜日だった。

カレは、いつもは仕事だけど、その日は久々の休みだった。

涙が止まらなくて恐かった。

しばらくすると返事がきた。

《いるよ。どうしたの？》

「恐い夢見た。どうしたらいいか分からない。涙が出るよ……」

・
」

カレも一緒に動揺するかな？

なんて思った。

カレは

《僕の声聞く？ 安心するかも》

と言ってくれた。

「うん・・・・・・・・」

あたしは泣きながら、カレと話すことにした。

カレは

あたしが何を思い出したか、今回は詳しく聞かなかった。

それどころか

10月に行ったお祭りの写真を見せて、楽しいことを

あたしの頭の中に入れてくれた。

怖いものを

退治してくれた。

それでも時々、恐くなった。

あたしは

「なんか・・・怖いもの、思い出してきた」

と言った。

するとカレは

《一緒に花火見たこと思い出して。僕は楽しかったよ》

と言ってくれた。

あたしもだよ。。

あたしも、ほんとに

楽しかった。

どんな場所に行っても

どんなことをしても

花火を見たこと

初めて男のヒトと2人で見に行っただから

あたしはすっかり覚えてる。

しばらく話していたら

眠くなってきた。

あたしは w e b c a m で

自分の映像を見せた。

「新しい服買ったんだ」

と言って、見せた。

《かわいいね》

とカレは言ってくれた。

「いつも行くお店の店員さんと仲良くなって、対人恐怖症のあたし
とでも

上手に話してくれるし、コーディネートしてくれるの」

とあたし。

いつも服を買って見せられるほど

お金持ちじゃないけど

あなたに何か

何かをしたい。

いつもあなたが

何かをして

あたしを安心してくれるから。

あれこれ話していると

時間は あっという間に過ぎて

お互い眠くなった。

あたしは寝顔を見せながら

カレと話した。

「あなたが近くにいるみたいで嬉しい」

あたしが言うつと、カレも

《僕もだよ》

と言ってくれた。

寝息、聞こえちゃったかも・・・。

あたしは昼は昼で、ゆううつ。

夜もゆうつつ。

だけど、夜、カレと連絡とれるときは

とても幸せ

お互いにオヤスミを言って

ぐっすり眠ることができた。

進展（前書き）

あなたは

あたしに近づいてくれる？

進展

夜は、苦手。

大好きなカレもそのことは知ってる。

相変わらずあたしのトラウマは簡単には消えてくれない。

いくら病院で話聞いてもらって

その時は納得できても

なんだかなあ。。

後から思い出しちゃうんだ。

カレは

ゴミ箱を作って

待ってくれているような人。

遠距離だけど、

チャットやメールすると

《はい、悪いことがあるなら一緒にここに捨てましょ》

って言ってくれる感じ。

あたしは昨夜から今朝にかけて

チャットしながら寝た。

こうやって毎日一緒にいてくれると

お兄さんみたい。

それか

カウンセラーみたい。

映画「かぼちゃ大王」を思い出すよ。

精神科医の先生と少女の話。

先生が少女を安心させてくれるんだ・・・。

カレは、

なんであたしと付き合ってるんだろ!?

他に健康で明るくて

かわいい子いっぱいいるのに。

寝る前に言った。

「I like you a lot」
(とっても大好き)

カレも英語で返事をくれた。

” I l i k e y o u a l o t , t o o (僕も大好きだよ)
”

こんなこと、めったに口にしないカレが

チャットで

文字で

そう書いてくれて幸せだった。

そして

* k i s s *

とも書いてくれた。

うれしかった。

ね、これって、進展してるんだよね？

あなたは

あたしに近づいてくれるんだよね？

そう・・・信じてもいい？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8143c/>

Das Ohr!（ダス・オーア）

2010年11月12日20時36分発行